



本日はよくお参り下さいました

若葉青葉のさわやかな季節、皆さまいかがお過ごしでしょうか。誰もが毎日を穏やかに、平和に過ごしたいと願い、神さまに守って頂いていることを感謝して手を合わせています。それでも悲劇は、必ず起こってしまいます。深い悲しみの中では、怒り、憎しみ、悔しさ、あらゆる負の感情がこみ上げ、どうすることもできません。こういった感情をどのようにすればよいのでしょうか。体の傷は治っても、心の傷は、そう簡単には治りません。かさぶたを取れば、また傷は痛むでしょう。これは仕方がないことだと思います。顔では笑っている人も、心の中では泣いているかもしれません。皆、心の中に弱い部分を持って生きています。憂いを抱きながら、一所懸命に生きています。そのことを理解して、日々の暮らしの中で、互いに思いやり、支え合っていくことが、どれほど大切なことか。ほめ言葉を一つ言うだけでも、言われた人は一日中幸せな気持ちになれたりするものです。どうか止まった時計の針が再び動き出す日が来ますように。今月も皆さまのご多幸をお祈り申し上げます。権禰宜 道子



もうすぐ梅雨ですわ

6月

1日・15日 月次祭(つきなみさい) 皇室の弥栄と国家安泰、氏子崇敬者並に社会の幸福と平和を祈る。

1日更衣(ころもがえ) 季候に合わせて衣服を着替える習慣をいう。「衣替え」「衣更」とも書く。

6日芒種(ぼうしゅ) 梅雨入りの前で、昔の田植えの開始期にあたる。芒種とは稲や麦など芒(のぎ)のある穀物を植え付ける季節を意味している。

22日夏至(げし) 夏季の真ん中にあたり、梅雨の真っ盛りで、しとしと長雨が続く。昼が最も長くなり夜が最も短くなる。

23日沖繩慰霊の日 昭和20年6月23日激戦を極めた沖繩決戦は終わった。約20万人もの犠牲者を出したこの出来事を忘れないために、沖繩ではこの日を「慰霊の日」とし正午のサイレンを合図に一分間の黙祷を捧げ、沖繩戦による戦没者の霊を慰める。さらに平和を祈る鐘の献鐘や、琉球古典音楽の献奏、琉球舞踊の奉納、光の演出、キャンドルによるライトアップその他多くの催し物が行われる。



30日夏越の祓(なごしのはらえ) 下記参照。

天神さまの豆知識

— 夏越の祓 —
なごしのはらえ

日本人は古来、心身のけがれを祓い清める「はらえ」を重視してきました。古代の日本人にとって、稲は神さまの恩寵による神聖なものであり、けがれない体で農業に従事することが必要だと考えていたからです。はらえの行事としては、毎年六月と十二月の末日に行う大祓を重んじています。六月の大祓は、夏越の祓と呼ばれます。夏を越し、残り半年を平穏無事に過ごせるよう祈るものです。夏越は「和し(なごし)」に通ずることから、気温、湿度ともに高い旧暦の六月に疫神を和ませて災厄を鎮める「和し(なごし)の祓」であるともされました。茅の輪(ちのわ)くぐりを行う神社もあります。参考文献『神道とききたり』茂木貞純監修

茅の輪くぐり



ちがやで作った輪を三回くぐりながら、「水無月の夏越の祓する人は、千歳の命のぶというなり」と唱えます。

今月の言葉

『波が乱れていては水面に映る月を見ることはできない』
「菜根譚」前集・一七一より



心から雑念を追ひ払えば本来の自分の姿が見えてくる。雑念をいっばい詰め込んだままで自分の姿を見ようとしても不可能だ。それはちょうど、波をかきわけて、水に映った月をどうとしようとするようなものである。意識をすっきりさせれば、心も澄む。意識を濁ったままにしておいて、心だけ澄んだ状態にしようとしても、不可能だ。それはちょうど、鏡の曇りをそのままにして、物を映し出そうとするようなものである。引用・参考『人生を豊かにする菜根譚のことば』守屋洋著 平成三十年一月(株)PHP研究所発行